

<p>児童・生徒の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生から成人まで幅広い年齢層の児童生徒が学び、社会経験や障害受容の程度などに大きな差がある。 晴眼者にとっては簡単な概念形成であっても、その育成のための工夫が必要である。 他者の意図や感情の変化を読み取ることが難しく、一方的なコミュニケーションになったり、もしくは他者とのかわりが消極的、受動的になったりする傾向がある。 自己肯定感が低い。 	<p>本校の教育目標</p> <p>ヘレンケラー女史が、本校に餞として残してくれた「英知・忍耐」という言葉を信条として、視覚等の障害を克服し調和のとれた人格の形成に努め、社会の一員として自主的・積極的に生きる人間を育成する。</p> <p>「志教育」の目標</p> <p>より自分らしく豊かに生きるために、自己実現を果たすための課題や今取り組むべき事柄について積極的に考える意欲や態度を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分を生かすネットワークを築く。 2. 自分の目標を実現する方法を学ぶ。 3. それぞれのやり方で社会に貢献する。 	<p>保護者や教師の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて周囲の支援を受けながら豊かな生活を送ってほしい。 目標実現のために努力する人になって欲しい。 将来に向けて自分らしい生き方を選択して行ってほしい。 自立した生活ができるようになってほしい。 社会の一員として、それぞれの役割を担い未来を支える力になってほしい。
---	---	---

重点指導事項		
<p>人と「かかわる」</p> <p>小・中・高・専攻科等々の幅広い年齢層の人たちとのかかわりを通して、相手の立場や考えを尊重し、場面や目的に応じた態度を養う。</p>	<p>よりよい生き方を「もとめる」</p> <p>自己の職業的な能力や適正を理解し、自立活動や体験的学習を通して、自らの在り方・生き方について主体的に探求させる。</p>	<p>社会での役割を「はたす」</p> <p>自立した生活を送れるようにするとともに、ライフステージに応じ、社会の一員として役割や責任を果たそうとする態度を養う。</p>

各教育活動における取り組みの観点
<p>各教科</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会参加と自立に必要な知識・技能を身につけ、主体的に表現・判断・決定できるようにする。 <p>総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験的な学習活動を通して経験領域を拡大して職業意識を高める。 社会のルールやマナーなどを体験的に学び、公共心を養う。 <p>特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームルーム活動や学校行事、生徒会活動を通じて、自分の役割と責任を自覚し、仲間と協力して集団生活の向上に資する意欲と態度を養う。 <p>自立活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害による学習上・生活上の困難さを主体的に改善・克服するために必要な知識・技能・態度を養う。

各学年の取り組み内容
<p>1 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい環境に適応するとともに、他者との望ましい人間関係を構築できるようにする。 学習活動を通して自己の能力適性を理解する 様々な進路情報を収集し進路選択の幅を広げる。 新入生オリエンテーション 校外学習 ・ 校内実習 ・ 職場体験学習 他校との交流学习等 <p>2 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者の価値観や個性を理解し、それを受容するとともに、自己の考えを広げたり深めたりする。 自己の職業的の能力適性を理解し、将来設計を図る。 校外学習 ・ 修学旅行 ・ 校内実習 施設見学 ・ 施設実習 ・ 職場体験学習 他校との交流学习等 <p>3 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の能力適性を的確に判断し、将来設計について具体的な目標と課題を定める。 理想と現実の葛藤を通して、困難を克服するスキルを身につける。 校外学習 ・ ボランティア活動 ・ 進路講話 施設実習 ・ 職場体験学習 ・ 他校との交流学习

家庭との連携
<ul style="list-style-type: none"> 現在学校で行っている教育活動が卒業後や将来にどう関係するのか、社会人となるためにどのような力を培っているのか等について説明を果たし、将来の展望について保護者と共有する。 教育相談 ・ 支援会議 ・ 進路研修会 ・ 連絡帳 個別の教育支援計画 ・ 個別の指導計画

地域・企業との協働
<ul style="list-style-type: none"> 障害理解の啓発と支援の連携協力を推進する。 宮城教育大学等、外部の専門家や地域資源の積極的な活用を進める。 支援会議、就労支援講演会の開催 共同学習